

群 教 七	G05 - 03
	平15.214集

# 音楽の要素の働きを生かして、 表現を工夫しようとする児童の育成

—— 音楽づくりに聴く活動を位置付けて ——

特別研修員 原澤 扶美子（利根村立東小学校）

## 主題設定の理由

音楽活動への意欲を高め、音楽の楽しさや表現する喜びを味わえるようにするためには、自らの表現の意図やイメージ、思いなどをふくらませながら、自分なりの表現方法を工夫していく活動を学習の中に取り入れていくことが大切である。

本学級の児童は、教師の話をよく聞き、指示を素直に受け止め、歌唱や器楽演奏も楽しんで行っている。そのため、意欲的に活動できているように見えるが、一人一人のイメージや思いを生かして、主体的に音楽にかかわるまでには至っていない。幼い頃からの固定された集団の中で、目立つことや人と違うことを好まず、新しいことに挑戦したり、自分の思いを表現したりすることに自信がない児童が多く、自分の力で表現を工夫していこうとする姿勢が弱い。

このような状況を解決するためには、多様な表現方法にふれる機会を設け、児童の音楽経験を広げると同時に、何かを表現したいという意欲及び表現に必要な基礎的能力を高め、互いの工夫を認め合いながら、表現することの楽しさに自ら気付いていくような手立てが必要である。そこで、音楽を特徴づけている様々な要素の働きに気付かせ、そこから感じ取れる場面や情景などのイメージをふくらませ、自分の思いと重ね合わせながら音楽づくりをしていく活動を行おうと考えた。

児童は、楽曲に出会ったとき、その演奏形態やリズム・旋律・音の重なりなど様々な音楽の要素から曲想を感じ取り、さらに自分なりのイメージをもつ。そのイメージをもとに表現方法を工夫しながら自分の音楽をつくり上げていく。より自分らしい音楽をつくり上げていくためには、イメージをより豊かに広げたり、具体化していくための多様な表現方法を試み、確かめ合い、認め合ったりする活動内容を用意する必要がある。

ここでは、学習過程の中に「リスニングタイム」と名付けた聴く活動を位置付けることとした。楽曲や友達の演奏などを音楽の要素に着目して聴くことを通して、音楽を特徴づけている要素に気付き、その効果とイメージとの関連を感じ取ることができれば、自らの表現に感じ取ったことを生かし、表現を工夫していくことができるようになるであろう。こうした活動を通して、表現する楽しさや喜びを味わうことができ、音楽活動への意欲も高まると考える。

以上のことから、音楽づくりに聴く活動を位置付けていけば、音楽の要素の働きに気付き、それを生かして表現を工夫しようとする児童の育成につながると考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

音楽づくりの学習過程に、音楽の要素に着目した聴く活動を位置付け、音楽の要素とイメージとの関連を感じ取れるようにしていけば、音楽の要素の働きに気付き、それを生かして、表現を工夫しようとする児童が育成できることを、実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 イメージをもつ過程で、音楽の要素の働きに関心をもてるように、テーマに基づいた鑑賞曲を聴く活動を位置付ければ、音楽づくりにおける思いを広げられるであろう。
- 2 音楽の特徴に気付く過程で、音楽の要素とイメージとの関連に気付けるように、音楽の要素を変化させた演奏を聴く活動を位置付ければ、音楽の要素の働きに対する意識が高まり、それを自分の表現に生かしていけるであろう。
- 3 表現を工夫する過程で、表現したいイメージが音楽を通してうまく伝えられているか確かめ合えるように、互いの表現を聴き合う活動を位置付ければ、自らの表現を見直し、音楽の要素の働きを生かしたより豊かな表現を工夫しようとするであろう。

## 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

- (1) 「音楽の要素の働きを生かして、表現を工夫しようとする児童」とは

本研究の目指す「音楽の要素の働きを生かして、表現を工夫しようとする児童」とは、今まで音楽を聴いたときに思い浮かべたイメージはどこからきていたのかを、音楽の要素と関連づけて考えることによって、音楽を特徴づけている諸要素の働きに気付き、それを自分の表現の中に生かし、より豊かな表現を目指して活動しようとする児童である。

音楽を特徴づけているのは、リズム・旋律・音の重なり・速度・音色・強弱などの要素である。これらが複雑に絡み合っ一つの音楽ができています。そして、人はその音楽を聴いたとき、何か特定の場面・状況・情感などを想像することができる。それは、音楽の要素と深く結びついている場合が多い。たとえば、旋律の調性の違いで、明るい感じや悲しい感じがしたり、リズムの違いで、軽やかな感じや重たい感じがしたりする。音楽の要素によって作り出された曲想を感じ取ることで、一人一人のイメージが広がるのである。

- (2) 「音楽づくりに聴く活動を位置付ける」について

「音楽の要素の働きを生かして、表現を工夫しようとする児童」の育成のために、自由な発想を生かした創作活動としての音楽づくりを進めていく。その中で、音楽の要素に対する意識を高め、より豊かな表現を練り上げていく手立てとして、聴く活動と表現活動とを深くかわらせた学習過程を工夫し、それぞれの過程に以下のような聴く活動を位置付けていく。

#### テーマに基づいた鑑賞曲を聴く活動「リスニングタイム1」

イメージをもつ過程に位置付ける。鑑賞曲を聴いて思い浮かべた情景について、音楽の要素と関連させながら話し合い、音楽の要素の働きに関心をもてるようにしていく。そうすることで、児童は、イメージを音楽で表すことに興味がわき、自分の表現したい場面のイメージをふくらませることができるであろう。表現したいイメージをはっきりさせていくことを通して、音楽づくりにおける児童の思いを広げるとともに、活動全体への見通しをもてるようにする。

#### 音楽の要素を変化させた演奏を聴く活動「リスニングタイム2」

音楽の特徴に気付く過程に位置付ける。リズム・速度・音色・強弱などの音楽の要素を変化させた演奏を聴き、そこから感じ取れる曲想の違いと音楽の要素とのかかわりに気付けるようにしていく。同じ付点音符のリズムでも、速さの違いで、はずんだ感じにも疲れた感じにもなることや、音の強弱で、遠近感や緊迫感なども表現できるおもしろさに気付かせるこ

とを通して、音楽の要素の働きに対する意識を高め、自分の表現したいイメージに生かしていけるようにする。

### 互いの表現を聴き合う活動「リスニングタイム3」

表現を工夫する過程に位置付ける。中間発表としてグループ全体の表現を互いに聴き合い、表現したいイメージが音楽を通してうまく伝えられているか確かめ合えるようにしていく。アドバイスカードを用い、互いの表現のよい点やもっと工夫できる点を交換し合うことを通して、自らの表現を見直し、音楽の要素の働きを生かしたより豊かな表現を工夫できるようにする。

## 2 研究の方法

### (1) 授業実践計画

対象	利根村立東小学校 6年1組 13名	実施期間	10月～11月：9時間
題材名	音楽で宇宙を旅しよう	教材	銀河鉄道の歌 木星
抽出児	<p>A子：積極的に活動に取り組むが、やや自己主張が強いところがあり、全体のバランスを考えた表現ができずにいる。そこで、音楽の要素の働きに気付き、一つ一つの音に込められた意味を考えることを通して、より豊かな表現ができるように支援したい。</p> <p>B男：感性はいいのだが、楽器の演奏に自信がもてないため、積極的に活動できないことがある。そこで、感性のよさをイメージづくりの中で生かし、音楽の要素とイメージとのかかわりに興味をもつことを通して、前向きに創作活動に取り組めるように支援したい。</p>		

### (2) 検証計画

項目	検証の視点	検証の方法
見通し1	イメージをもつ過程で、音楽の要素の働きに関心をもてるように、情景をイメージしやすい鑑賞曲を聴く活動「リスニングタイム1」を位置付けたことは、音楽づくりにおける児童の思いを広げるために有効であったか。	・発言やつぶやき ・取組の様子 ・ワークシートの記入内容
見通し2	音楽の特徴に気付く過程で、音楽の要素とイメージとの関連に気付けるように、リズム・速度・音色・強弱などの音楽の要素を変化させて聴く活動「リスニングタイム2」を位置付けたことは、音楽の要素の働きに対する意識を高め、それを自分の表現に生かしていくために有効であったか。	・発言やつぶやき ・取組の様子 ・ワークシートの記入内容
見通し3	表現を工夫する過程で、表現したいイメージが音楽を通してうまく伝えられているか確かめ合えるように、互いの表現を聴き合う活動「リスニングタイム3」を位置付けたことは、自らの表現を見直し、音楽の要素の働きを生かしたより豊かな表現を工夫しようとするために有効であったか。	・取組の様子 ・発言やつぶやき ・ワークシートの記入内容 ・VTR録画

## 研究の展開

### 1 題材及び題材の考察

題材	音楽で宇宙を旅しよう	教材	「銀河鉄道の歌」 あだち やえ 作詞/原 由多加 作曲 管弦楽組曲『惑星』から「木星」 ホルスト 作曲
<p>考察：本題材は、宮沢賢治の小説「銀河鉄道の夜」のイメージをもとにつくられた曲をベースに、宇宙・惑星・銀河などから思い起こす情景を音楽で表現していく活動を通して、音楽を特徴づけている諸要素の働きに気付き、それを自分の表現の中に生かし、より豊かな表現ができるようにしていくことを目指している。壮大で神秘的な未知の世界、宇宙をテーマにすることで、児童は自由に発想を広げ、創作活動にも興味をもって取り組んでいけると考える。教材の曲を通して広げていった自分の思いを音楽に表現していく活動の中で、互いに聴き合い、自分の表現を確かめ合いながら表現を工夫していくことは、感性を培い、表現することの楽しさや喜びを味わうことにつながるであろう。</p>			

## 2 目標及び評価規準

目標	自分たちの思いやイメージに合った音楽表現になるように、音楽の要素を生かして表現を工夫しようとしている。			
観点	ア 関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受・表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価 規準	音楽の特徴に関心をもち、グループで考えを出し合いながら、自分たちの思いやイメージにあった音楽をつくろうとしている。	音楽の要素の働きから感じ取れる曲想の違いに気付き、それを自分の表現に生かそうとしている。 イメージした情景に合った表現になるように楽器の組合せや奏法を工夫している。	音楽や楽器の特徴を生かして、演奏している。	音楽を特徴づけている様々な要素による曲想の違いを感じ取りながら、想像豊かに聴くことができる。 友達の表現のよさやおもしろさを感じ取って聴いている。
学習活動における 具体的な 評価規準	自分なりのイメージをもって、音楽づくりに取り組もうとしている。 友達と意見を出し合いながら、協力して音楽づくりに取り組んでいる。 友達の意見を聞いて、自分たちの表現をさらに工夫しようとしている。	音楽の要素を変えると、曲想や思い浮かべるイメージが変わってくることに気付いている。 イメージした音になるよう音楽の要素を考えて表現を工夫している。 表現したい場面に合った音楽をつくるために、楽器の組合せや奏法を工夫している。	音楽や楽器の特徴を生かして、奏法などを工夫しながら演奏している。 自分たちのイメージに合うように音色や響きに気をつけて演奏している。	音楽の要素と曲想との関連を感じ取りながら、聴いている。 友達の表現のよさや工夫を感じ取ろうとしている。 作品全体のよさやおもしろさを味わっている。

## 3 指導計画(全9時間計画)・・・詳細は別添資料

過程	時間	学 習 活 動	形 態	評 価 の 観 点 と 方 法 ( ) 十分に満足できると判断できる状況 ( )
イ メ ジ を も つ	2	「銀河鉄道の歌」を歌う。 ・ 範唱を聴いて曲の感じをつかみ、情景を想像しながら歌う。 ・ 曲のイメージを広げ、自分の行ってみたい星の情景を思い浮かべる。	一 斉	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し 1</div> 「木星」を鑑賞する。 <リスニングタイム1> ・ 旋律や響きを味わい、情景を想像しながら聴く。  「音楽で宇宙を旅しよう」というテーマで自分の行ってみたい星の情景を書く。 ・ 一人一人がもったイメージを発表し合う。 ・ 同じ思いをもった児童同士でグループを作る。	一 斉  個 人  一 斉	<b>【エ】</b> 音楽の要素と曲想との関連を感じ取りながら、聴いている。 (観察・ワークシート・発言) 楽曲全体の曲想や変化を音楽の要素と結びつけて聴いている。  <b>【ア】</b> 自分なりのイメージをもって、音楽づくりに取り組もうとしている。 (ワークシート・発言) イメージを豊かにふくらませ、それを積極的に発表しようとしている。
音 楽 の 特 徴 に 気 付 く	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し 2</div> 音楽の要素を様々に変えた鑑賞を行う。 <リスニングタイム2> ・ リズム・速度・音色・高さ・強弱などの音楽の要素を変化させ、そこから思い浮かべるイメージの違いに気付く。 簡単な曲で、音楽の要素を変えた表現活動を行い、イメージの違いを感じ取る。 ・ 自分の分担した場面のイメージを意識して楽器を選んだり、リズムなどを工夫したりする。	一 斉  個 人	<b>【イ】</b> 音楽の要素を変えると曲想や思い浮かべるイメージが変わってくることに気付いている。(観察・ワークシート) 音楽の要素が曲想と深く結びついていることを感じ取れる。  <b>【イ】</b> イメージした音になるよう音楽の要素を考えて表現を工夫している。 (観察・発表) いろいろな表現の可能性に気付き、楽しみながら工夫している。
		グループごとに、自分たちの思いやイメージをもとに音楽づくりを行う。	グループ	<b>【ア】</b> 友達と意見を出し合いながら、協力して音楽づくりに

表現を工夫する	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい場面の表現方法を話し合い、音楽づくりの構想図を作っていく。</li> <li>・演奏する楽器</li> <li>・使う曲</li> <li>・リズムや速度</li> <li>・効果音やナレーション</li> <li>・話し合ったことをもとに繰り返し表現しながら、工夫を加え、音楽づくりを進める。</li> </ul>		<p>取り組んでいる。 (観察)</p> <p>積極的に表現方法や役割分担を決め、自分たちの音楽をつくり出そうとしている。</p> <p><b>【イ】</b></p> <p>表現したい場面合った音楽をつくるために、楽器の組合せや奏法を工夫している。 (観察・ワークシート)</p> <p>全体の流れの中で、一つ一つの音の役割を考え、イメージに合うように演奏を工夫している。</p>
	1	<p style="text-align: center;"><b>見通し 3</b></p> <p>グループごとに工夫してつくった音楽の中間発表を行い、互いの表現を確かめ合う。 ＜リスニングタイム3＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに聴き合って、感想を発表し合う。</li> <li>・発表を通して気付いたことや友達の感想から、さらに工夫できることはないかグループごとに話し合う。</li> </ul>	一斉	<p><b>【ウ】</b></p> <p>音楽や楽器の特徴を生かして、奏法などを工夫しながら演奏している。 (観察・発表)</p> <p>一つ一つの音の役割をイメージと重ね合わせて理解し、工夫して演奏している。</p> <p><b>【エ】</b></p> <p>友達の表現のよさや工夫を感じ取ろうとしている。 (ワークシート・発表)</p> <p>各グループの工夫や演奏の優れている表現を理解して聴いている。</p>
	1	<p>中間発表での話し合いをもとに、発表に向けて自分たちの表現をさらに工夫していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの演奏をつなげてクラス全体で一つの物語になるように演奏順序を考える。</li> <li>・グループごとに発表に向けて練習する。</li> </ul>	グループ	<p><b>【ア】</b></p> <p>友達の意見を聞いて、自分たちの表現をさらに工夫しようとしている。 (観察)</p> <p>自分の考えを積極的に述べながら表現の見直しをし、よりよい表現を目指して工夫を重ねている。</p>
発表	1	<p>各グループの作品をつなげて演奏し、一つの作品に仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を終えての感想を発表し合う。</li> </ul>	一斉	<p><b>【ウ】</b></p> <p>自分たちのイメージに合うように音色や響きに気を付けて演奏している。 (観察・発表)</p> <p>自由な発想を生かした自分たちの音楽表現を楽しんでいる。</p> <p><b>【エ】</b></p> <p>作品全体のよさやおもしろさを味わっている。 (観察・ワークシート)</p> <p>互いに工夫した表現のよさを感じ取りながら聴いている。</p>

## 研究の結果と考察

### 1 イメージをもつ過程で、音楽の要素の働きに関心をもてるように、情景をイメージしやすい鑑賞曲を聴く活動「リスニングタイム1」を位置付けたことは、音楽づくりにおける児童の思いを広げるために有効であったか

イメージをもつ過程で、ホルスト作曲管弦楽組曲『惑星』から「木星」を聴き、思い浮かべた情景を自由に書く活動「リスニングタイム1」を行った。児童は、緊迫感のある前半部、強弱のはっきりした躍動感のある中間部、雄大で歌謡的な後半部と、音楽の特徴を感じ取って、それぞれの場面のイメージを広げていた。

一人一人思い浮かべた情景を発表していったところ、全員が物語性のある三つの場面を想像していた。なぜそうなったのかを音楽の特徴と結びつけて考えることで、音楽の要素の働きに関心をもつきっかけとすることができた。

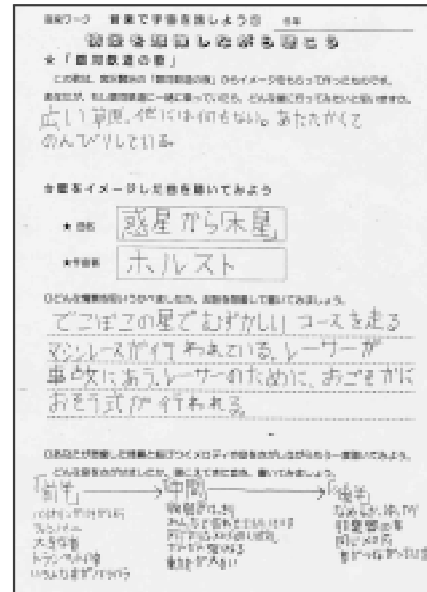
A子は、「静かな星や楽しい星に汽車に乗って行く。けんかしたり、こわい目にあったりもするが、最後は感動して帰ってくる。」と書いた。なぜそう思ったのか聞くと、「ティンパニの音やバイオリンの忙しそうなリズムが言い争いをしているように感じた。」と答えた。リズムの違いでイメージが違ってくることに興味をもったようであった。そして、音楽づくりのと

きには、リズムを工夫して「小さな星に住む小さな生物たちが楽しく遊んでいるところを表現したい。」と発表した。

B男は、マシンレースが行われている情景を想像した（資料1）。「細く曲がりくねったコースを上ったり下ったりしながら、ものすごいスピードで走っている。」などと言い、三つに分かれた曲の特徴をよくつかんで、はっきりとしたイメージにつくり上げていた。音楽づくりをした場面は、「真っ暗で何も無い星だと思っていたのに、日が出てきたら全部草原。暖かくのんびり。夜になったら水晶の星に変わる。」と「木星」を聴いて想像した情景と同じように物語性をもった変化のあるものになった。音楽から情景を思い浮かべられたことで、自分のイメージを音楽で表すことにも興味をもち、こんな場面の音楽づくりをやってみたいという思いを広げていったようであった。

A子やB男の様子から、音楽の要素の働きに関心を持ちながら、情景をイメージしやすい曲を聴き、音楽からイメージを広げていく支援をしたことで、音楽づくりのもとになるイメージづくりに楽しんで取り組むことができ、音楽づくりへの思いを広げることができたと考える。

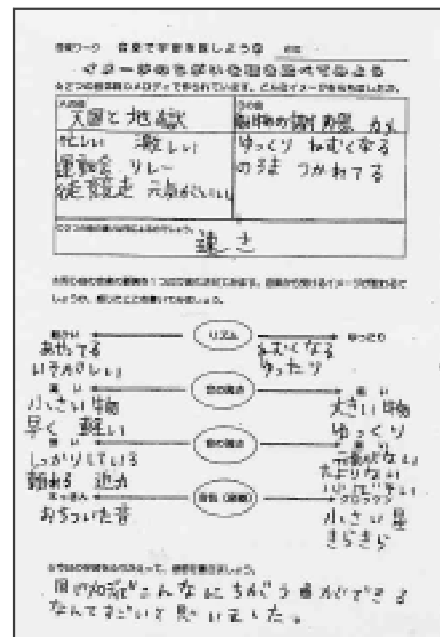
資料1 B男のワークシート



**2 音楽の特徴に気付く過程で、音楽の要素とイメージとの関連に気付けるように、リズム・速度・音色・強弱などの音楽の要素を変化させて聴く活動「リスニングタイム2」を位置付けたことは、音楽の要素の働きに対する意識を高め、それを自分の表現に生かしていくために有効であったか**

個々で表現したい場面のイメージを発表し合った後、同じようなものや関連性のあるものを一緒にして、二つの星のイメージをつくり上げ、グループ編成をした。自分の表したいイメージをもたせたうえで、それを表現するための支援として、音楽の要素を変化させた演奏を聴く活動「リスニングタイム2」を行った。まず、「天国と地獄」と「亀（動物の謝肉祭）」を聴き比べ、同じメロディなのに曲想が違うのはなぜなのか考えることで、音楽の要素の違いが曲想に大きくかかわっていることに気付くことができた。その後、リズム、音の高さ、強さ、音色を変えることで、曲想や思い浮かぶイメージがどのように変わっていくか確かめていった。ほぼ全員が、曲想の変化を的確に感じ取り、自分なりの言葉で違いを表すことができた（資料2）。

資料2 リスニングタイム2



A子は、次時に行った「きらきら星」のメロディを使って自分のイメージを表現する活動で、「小さい子が追いかけてっことをしている様子」をキーボードで表現した。隣の音を一緒に弾いて細かいリズムを刻み、追いかけてっこの様子を表そうとしていたので、「いい感じが出てるね。でも、追いかけてっことはひとりじゃできないよね。」と声をかけると、音の高低を使って逃げる子と追いかける子を表現する方法を

見つけだした。リズムが細かいと急いでいる感じが出ることや、やんちゃな子供を表す音色を工夫することなど、前時の要素の働きに気付く活動が生かされていた(資料3)。グループ活動に移ってからも、「星の生物たちが次々と出てきて、楽しく遊び出す」場面をつくる時の中心となって、隣の音を一緒に弾く和音と細かいリズムを活用していた。追いかけてこの様子の表現は、数人で協力しているいろいろな楽器で交互に演奏したり、一緒に演奏したりして、大勢で遊んでいる様子の表現に発展した。

B男は、「草原でのんびりひなたぼっこをしている様子」を表現したいといい、トランペットの息の入れ方を工夫しながら、ゆったりとしたリズムで演奏した。友達の演奏を聴いた感想には、「同じ曲なのに、速さや楽器をかえるだけで全然ちがう曲みたいにきこえて、けっこうおもしろいと思った。」と書いていた。グループ活動では、効果音係になり、科学クラブで作ったバネ電話を持ってきて

宇宙人の様子を表す音を出したり、雪が降り積もっていく様子をベルやトライアングルなどを使って工夫して表現しようとしたりしていた。楽器演奏に自信がもてないため、積極的に活動することの少なかったB男が、効果音を入れるタイミングや音の強さにこだわり、友達と話し合っている姿がみられた。

以上の様子から、音楽の要素を変化させて聴いたことで、音楽の要素の働きに気付き、個人の表現活動で試してみよう要素とイメージの関連性を実感し、音楽づくりの場で生かすという一連の流れをつくり出せたことがわかる。また、一つ一つの音とイメージが結びついていることがわかったため、自分の出す音も友達の出す音も大切にしようとしていた。このことから、音楽の要素を変化させた演奏を聴く活動を位置付け、そこから感じ取れる曲想の違いに気付かせるようにしたことは、音楽の要素に対する意識を高め、表現に生かしていくために有効であったと考えられる。

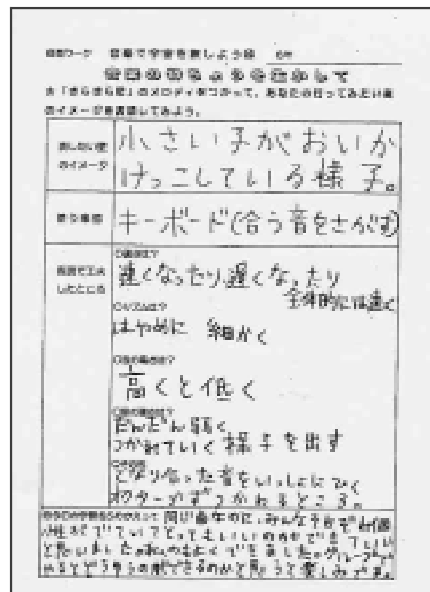
### 3 表現を工夫する過程で、表現したいイメージが音楽を通してうまく伝えられているか確かめ合えるように、互いの表現を聴き合う活動「リスニングタイム3」を位置付けたことは、自らの表現を見直し、音楽の要素の働きを生かしたより豊かな表現を工夫しようとするために有効であったか

表現を工夫する過程では、互いの表現を聴き合い、表現したいイメージがうまく伝えられているか確かめ合う場を意図的に設けた。表現の工夫がみられる場面を部分的に聴き合ったりする時間は、活動の進度に合わせて適時とするようにした。互いの進み具合を確かめ合ったり、工夫を認め合ったりしながら活動を進めたことは、よい意欲づけになった。

ある程度音楽づくりが出来上がってきたところで、よりよい表現を目指すための「リスニングタイム3」を中間発表として行った。演奏を聴くポイントを使っている曲、楽器の選び方や演奏方法、リズム・速度・強弱などの工夫、効果音・ナレーション、の4点とし、互いに感じたことをアドバイスカードで交換し合った。児童は、同じ曲が、表したい場面に合わせて様々に変化していく様子を興味深く聴き合い、互いのグループの工夫点を認め合っていた。

A子は、相手グループのよかった点として「あらしの音や大砲の音のタイミングがいい。木琴が2回ずつゆっくりたたいてメロディを演奏しているのが戦争の感じが出ている。平和になる場面で楽器がふえていったのがよかった。」を挙げ、「戦争が終わって木漏れ日が差しているところをもう少し考えた方がいい。」とアドバイスしていた。A子のグループに対するアド

資料3 A子の音づくりのワークシート



バイスは殆ど出なかったので、「よかった点として出てきたことを、聴くポイントに沿って整理してみたら何か課題が見えてくるかもしれないよ。」と支援したら、よかった点が聴くポイントとに集中していることに気付いた。その後のグループの話し合いで、とについての課題をみつけ(資料4)、表現をさらに工夫していった。

リーダー的存在ではあるが、やや自己主張の強いところのあるA子は、強い音で演奏したり、自分一人で演奏する部分が多かったりしていたが「みんなで楽しく遊ぶ」というイメージをはっきり出すためには、交互に演奏したり、一緒に演奏したりする部分をもっと多い方がいいということに気付き、全体のバランスを考えながら自分の演奏部分や音の大きさを見直していった。

B男は、「効果音をはっきりさせよう」というアドバイスを受けて、メロディと一緒に出すのではなく、楽器の音色を生かして効果音だけ聴かせる部分があってもいいのではないかと考えた。太陽が出てくる場面では、「太陽が輝きだし、明るくなってくると、宇宙人が様子を見るために一人二人と顔を出してくる。」と、イメージをよりはっきりさせ、リズムや強弱を工夫して、だんだん強くなる太陽の光と集まり始める宇宙人の様子を効果音だけで表現しようとした。また、「雪がだんだん激しく降り、星全体が雪に覆われていってみんなが眠りにつく。」というイメージの最後の場面は、雪の降る効果音の強弱や速度を工夫して、静かにゆっくり終わらせるようにしていった。

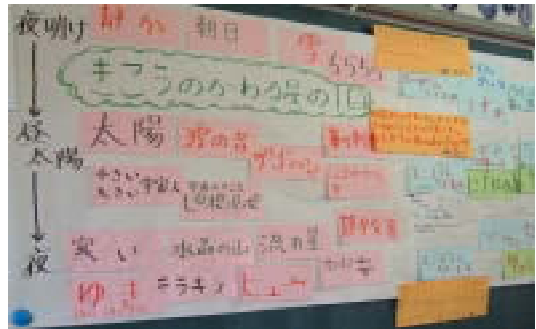
このように、A子もB男も、「リスニングタイム3」を行ったことによって、自分の表したい場面をより鮮明に思い浮かべ、音楽の要素の働きを生かしながら、自分の音を見直し、よりよく表現しようとしていた。このことから、互いの表現を聴き合う活動を位置付け、表現したいイメージがうまく伝えられているか確かめたことは、より豊かな表現を工夫していくために有効であったといえる。

### 研究のまとめと今後の課題

音楽の要素の働きとイメージとを結びつけて音楽づくりをしていく活動では、児童の豊かな発想がみられた。学習後の児童の自己評価でも、充実感のある活動ができたと感じられる表記が多かった。音楽の要素に着目した聴く活動を学習過程の中に位置付け、表現活動と深くかかわりをもたせるよう指導を工夫したことは、より豊かな表現活動をしようとする児童の育成につながったと考えられる。

児童がこうしたいと思い描いている表現をかなえるためには、多様な表現方法を提示し、それを基に演奏方法や演奏形態を工夫できるような支援が必要である。たとえば、イメージにつながるようなリズムパターンや音の重なり方を提示したり、音色の幅を広げるために多種類のばちを用意したりするなど、手立てはいろいろ考えられる。しかし、今回の研究では、それが充分であったとはいえない。それぞれの楽器のもつ可能性や音楽の要素の働きの生かし方をさらに探り、表現の工夫に対する支援の幅を広げる研究を深めていきたい。

資料4 A子・B男のグループの音楽づくり構想図



「リスニングタイム3」の後、グループで話し合った見直しの課題(長いカード)





